

平成30年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	17	学校名	静岡県立裾野高等学校	校長名	大石 広和
------	----	-----	------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	社会に適應できる基本的な生活習慣の確立に向けた指導を充実する。	裾野高校に入学してよかったと答える生徒75%以上【全員】	よかったと答えた生徒は79%だった。	A	成果目標の中で、一番重要な項目である。学校の教育活動全体を通じて、ポイントアップを目指す。
		服装が良いと答える生徒90%以上【生徒課他】	良いと答えた生徒は92%だった。	A	チケット指導を活用し、引き続き指導していきたい。
		挨拶ができると答える生徒90%以上【生徒課他】	できると答えた生徒は79%だった。	B	教員側からも挨拶を働きかけ、生徒の有用感につなげていきたい。
		出席率98.0%以上 遅刻・早退件数 前年度比30%減 【教務研修課他】	出席率97.7% 遅刻・早退の前年比13.2%減	B	欠席・遅刻は減少したが、目標に到達できなかった。欠席・遅刻の多い生徒への個別の対応が必要である。
		基本的な生活習慣の指導を適切に行っていると答える生徒80%以上【生徒課他】	適切に行っていると答えた生徒は80%だった。	B	学校生活全体を通して、基本的な生活習慣の重要性を伝え、改善につなげていきたい。
		月に1回以上の委員会活動【生徒課他】	約半数で達成した。	B	生徒会を中心に活発化していきたい。
イ	望ましい社会性、規範意識を育成し、生徒の自立性・社会性を伸ばし、命を尊び健康で安全な生活を送らせる。	全校集会、学年集会で毎回、生徒に問題行動予防のための講話を実施 問題行動の発生件数前年度比20%減 【生徒課他】	集会時の講話は随時実施された問題行動の発生件数前年度比45%減	A	集会だけではなく、学校生活や授業の中で、生徒たちに呼びかけ、問題行動の予防に努めたい。
		PTA・地域との連携による交通安全指導を実施し、交通事故件数を前年度比20%減 外部講師による交通安全教室を年2回実施 教育相談委員会の実施を年間6回以上 健康・安全に関する指導を行っていると答える生徒80%以上 【生徒課、保健相談課】	交通事故件数5件(昨年4件) 前年比25%増 交通安全教室年2回実施 教育相談委員会4回(現在) 指導を行っていると答えた生徒は81%だった。	A	引き続き外部講師による交通安全教室を年2回実施。登下校指導による、通学路の徹底。命の大切さについても講話等で触れていきたい。 教育相談委員会を6回、医療などの専門家含むケース会議は7回実施した。連携はスムーズだった。研修のため、課員以外の教員の相談委員会への参加を検討してはどうか。

様式第 3 号

		避難訓練を年 3 回実施。 地域防災訓練参加率 85%以上【総務課】	年 3 回実施できた。 参加率 61%	C	今年度から、2 年次においてジュニア防災士の資格取得を行わなくなったため、地域防災訓練参加の強制力が弱まった。
		生徒の作成による保健便りを年 5 回は発行 疾病治療率 75%以上 特に、歯科受診率 30%以上【保健相談課】	保健便り年 5 回発行 疾病治療率 55.5% 歯科受診率 30.5%	B	継続して保健委員になる生徒が増え、意欲的に保健だよりの発行にも取り組むので、継続する。 勧告書 4 回発行と子ども医療助成の呼びかけが受診率向上につながったと思われるが、周知方法を要検討。
		教職員は生徒の話を親身になって聞いてくれると答える生徒 75%以上 生徒面談年 3 回以上 生活アンケートを年 3 回実施 定例いじめ対策委員会を年 3 回開催【保健相談課他】	親身になって聞いてくれると答えた生徒は 75%だった。 生徒面談年 4 回 生活アンケート年 3 回実施 いじめ対策委員会年 3 回実施	A	学期ごとの面談の時期をずらし、学年ごとの面談の目的が明確になった。 教育相談委員会・いじめ対策委員会開催と生活アンケート実施、情報収集と対応をよりスムーズに行う。
ウ	総合学科の特色を生かして、地域人材の活用を図り、基礎基本の定着や課題解決能力を図る。	各系列の課題探究・課題研究について研修を実施 教務・研修課の研修機能を整備【教務研修課】	課題探究・課題探究先進校の視察 5 校 計画的な職員研修の実施	A	先進校の視察を計画的に実施できた。本校での活用、実践が今後の課題である。
		家庭学習をよくやっていると答える生徒 50%以上【教務研修課】 スタディサプリ利用率 70%以上【進路課】	よくやっていると答えた生徒は 23%だった。 スタディサプリ利用率 20%	D	毎日の授業課題により、家庭学習の習慣がつくようにする。 利用率が伸びず、学習効果が期待できないため、次年度よりスタディサプリ、到達度テストを廃止し、基礎力診断テストに移行する。
		授業がわかると答える生徒 70%以上【教務研修課】	わかると答えた生徒は 69%だった。	B	教員の授業改善を推進し、割合が更に上がるようにしていく。
		家庭学習時間調査を定期的実施し、生徒の家庭学習時間が前年度より増加【教務研修課】	家庭学習時間調査は、1・3 学期に実施 全体 53 分で昨年より 6 分増加	B	増加はしているがまだ少ない状況である。授業課題、週末課題等を利用し、家庭学習の習慣がつくようにしていきたい。
		朝読書がよいと答える生徒 75%以上 生徒の借りる本一人 3 冊以上【図書課他】	よいと答えた生徒は 68%だった。 一人 1.8 冊	B	満足な結果とはいえないが、少ない人員の中、朝読書の充実度は前年以上、また貸出数は前年並みの数字を確保した。

		<p>系列や選択科目が進路に応じていると答える生徒 80%以上</p> <p>オープンスクールにおける来校者の満足度 90%以上</p> <p>地域人材の登用 10件以上</p> <p>地域の課題解決に関するワークショップを開催</p> <p>【総合学科他】</p>	<p>進路に応じていると答えた生徒は 82%だった。</p> <p>オープンスクール満足度 98%</p> <p>地域人材登用 35件</p> <p>2年生の主権者教育において、地域課題ワークショップの開催</p>	A	<p>一部の系列が行っている「系列だより」の取り組みを全系列に展開し、系列学習の内容をより分かりやすく生徒に伝えられる環境を整えていきたい。</p> <p>各系列の特色を生かし、商品開発やイベントを継続的に行っていきたい。住民、行政、保護者、企業関係者など、裾野市に関わりのある方が気軽に連携できるよう情報収集と情報発信を強化していきたい。</p>
エ	<p>キャリア教育を推進し、地域貢献のできる人材育成を図る</p>	<p>3年生就職者の第一志望合格率 90%以上</p> <p>3年生進学者の第一志望合格率 90%以上</p> <p>卒業までの進路決定 100%</p> <p>進路に満足している 3年生 90%以上</p> <p>【進路課他】</p>	<p>就職者 94.1%</p> <p>進学者 91.4%</p> <p>進路決定率 92.2%</p> <p>進路満足度 92%</p>	A	<p>就職・進学とも目標値の 90%を達成することができた。卒業までの進路決定率は 96.0%であり、目標値の 100%を達成することができなかった。次年度は早期指導を徹底し、卒業までに進路決定できるようにしていきたい。</p>
		<p>「産業社会と人間」の授業が役だったと答える 1年生 85%以上</p> <p>【総合学科他】</p>	<p>役立ったと答える生徒は 79%だった。</p>	B	<p>2年次の地域研究、3年次の課題探求の実施を見据え、3年間のキャリア教育の中での位置づけを図りたい。</p>
		<p>インターンシップ参加者 2年生（就職希望者） 100%</p> <p>オープンキャンパス参加者（進学者） 100%</p> <p>進路目標が明確になったと答える 2年生 80%以上</p> <p>【進路課他】</p>	<p>参加率 98%</p> <p>オープンキャンパス参加率 73%</p> <p>進路目標が明確になったと答えた生徒は 52%。</p>	C	<p>オープンキャンパス参加報告書の徹底を図れなかったため、参加率が低くなってしまった。来年度は、インターンシップまたはオープンキャンパスへの参加率をあげ、進路意識向上に努めていきたい。進路の方向性を2年次末までには決定させたい。</p>
		<p>平日、休業中の補習参加者 各学年 40人以上</p> <p>【進路課他】</p>	<p>1年 15名</p> <p>2年 6名</p> <p>3年 15名</p>	C	<p>進学補講の参加率が低くなってしまった。進路意識を向上させ、特に3年生における平日補講の定着を図りたい。</p>
		<p>清掃により校内美化が保たれていると答える生徒 80%以上</p> <p>【保健相談課】</p>	<p>保たれていると答えた生徒は 68%だった。</p>	B	<p>平成 29 年度の生徒調査結果は 51%であったので、目標には届かなかったが改善した。教員の指導力向上が課題。</p>
オ	<p>学校行事、特別活動、部活動を充実し、生徒に自信と誇りを持たせ、学校の活性化を図る。</p>	<p>生徒会活動は成功につながっていると答える生徒 70%以上</p> <p>【生徒課】</p>	<p>成功につながっていると答えた生徒は 70%だった。</p>	B	<p>生徒会から出る自発的な意見を大切にし、活発化につなげたい。</p>
		<p>学校行事は充実していると答える生徒</p>	<p>充実していると答えた生徒は</p>	A	<p>五龍祭を中心に、生徒が活躍できる環境を心掛け、満足度を上</p>

様式第3号

		80%以上 HR活動を通してクラスのまとまりがあると答える生徒70%以上【生徒課他】	81%だった。 まとまりがあると答えた生徒は73%だった。		げていきたい。
		所属している部活動に満足していると答える生徒70%以上【生徒課】	満足していると答えた生徒は73%だった。	B	活動日数も含め、さらなる活発化を図っていきたい。
カ	保護者や地域住民等への広報活動を充実し、地域貢献活動を活発に実施する。	HPを活用して毎週1回以上の情報発信して月のアクセス数を3000以上とする HPで学校の様子を知ることができる保護者80%以上 各学年部は学期に3回以上保護者に対して学校の様子がわかる広報紙を発行 新聞記事掲載70件以上【情報委員会・各学年】	HP情報発信＝週2回 月のアクセス数2400件 様子を知ることができたと答えた生徒は79%だった。 学年広報誌(年) 1年7回 2年4回 3年0回 新聞記事34件	B	<ul style="list-style-type: none"> HPの発信は各部署の担当で実施することが機能してきたので続けていく。部活動の発信についてはガイドラインに基づいて来年度徹底を図る。 学年広報誌については、2,3年生について改善が必要である。 新聞記事掲載については、目標件数に大きく達しなかったが、設定が少し高すぎた。今後はメディアへの提供数で目標設定を行っていきたい。
		学校広報チラシを月に1回発行【総合学科】	未発行	C	中学校、地域を対象とした広報誌を月1回発行するように努めたい。
		PTA 総会出席率25%以上 PTA 支部会出席率75%以上 PTA 活動が理解されていると答える保護者60%以上【総務課】	総会出席率24.3% 地区会〃63% 理解されていると答えた保護者は62%だった。	B	PTA 総会後の学年ごとの行事の工夫や担任によるクラスでの参加呼びかけで総会の出席率を伸ばすことができた。
		清掃活動以外の一部活動一ボランティア活動の実施100%【生徒課】	実施率100%	A	継続した活動を実施したい。
キ	職員及び生徒の国際化を推進し、グローバル人材を育成する。	海外修学旅行に向けての事前研修、現地での取組計画、事後研修の立案 教職員対象の海外研修事業を積極的に広報 朝礼等で生徒の成果発表の場を学期に1回以上設定 英語検定合格者数	海外修学旅行の取り組みは、ほぼ予定通りできた。 教職員対象の海外研修事業の広報を行った。 発表：1学期2回、2学期1回、3学期1回 英検：3級10	C	<p>海外修学旅行に向けての事前準備において少し不足したところがあった。 海外修学旅行の成果を生徒に発表させる機会を設けることができた。</p> <p>朝礼での生徒発表は、確実に定着してきた。</p> <p>検定合格者の人数を目標通り</p>

様式第3号

		3級 30人以上 準2級 15人以上 漢字検定合格者数 2級 5人以上、準2 級 20人以上 数学検定合格者数 準2級 10人以上 商業検定合格者数 全商検定（簿記・情 報・電卓）1級 20 人以上【1・2年部】	人、準2級 4人、 2級 2 漢検：2級 2人 準2級 6人 数検：準2級 1 人 商業検定 全商 1級 9人		に伸ばすことができなかった。
ク	教職員は研修に積極的に参加し、組織的な取組により学校力の向上に貢献する。	授業参観後の合評会 や生徒による授業評 価アンケートを非常 勤講師まで含んで 100%実施 【教務研修課】	生徒授業評価ア ンケート 100% 実施	A	アンケートはしっかりできた。 結果を授業に反映させるよう にしたい。
		研修に満足した教員 80%以上 アクティブラーニン グの導入を図る教員 50%以上 【教務研修課】	満足度 82.9% アクティブラー ニングの導入 77.5%	A	授業改善につながる研修を引 き続き実施し、満足度、導入率 が更に上昇するようにしたい。
		必要な生徒に対して 個別支援計画立を作成 UD教育の研修を実 施【保健相談課】	個別支援が必要 な生徒なし UD教育研修実 施：参加率 31%	B	個別指導・支援計画は、中学校 からの引継ぎを含め、必要な生 徒には作成する。UD 研修は、 次年度から教務研修課が実施 する。
		生徒指導技術等の習 得に満足した教員 80%【生徒課】	満足した教員は 82.9%だった。	A	メンター制以外にも、若手教員 が生徒指導技術を習得する場 を設けていきたい。
ケ	教職員は効率化を図り、ワークライフバランスに努める。また、次世代育成支援を意識した行動に取り組む。	学年会等の定期開催 及び計画的、組織的 な取組をしたと考える 教員 90%【各学年】	定期的に開催さ れていない組織 もあるが概ねで きている。	B	総合学科の特徴として、教員の 空き時間を共通に設定するこ とが難しいが、短時間でも会議 を開くことで、職員間の共通認 識を図ることができた。
		月末月曜日の定時退 勤励行（午後6時完 全退勤） 午後8時退勤励行 （午後9時完全退 勤） 夏季休暇完全取得 一人当たり時間外勤 務月平均前年 H29 （32.2）より6時間 減少 一人当たりの年休取 得日数前年 H29	定時退勤日にお ける教員の実施 状況は余りよく なかったが、21 時完全退勤はほ ぼ実施できた。 夏季休暇取得率 98.8% 時間外勤務の月 平均前年比7時 間増 年休取得日数は ほぼ横ばい	B	教員の働き方に対する意識向 上や業務の適正配分を図ること で、教員の勤務時間短縮に努 める。

		(10.3) 3日増加 男性の育児参加休暇等の取得率100% (配偶者出産休暇、育児参加休暇) 【全員】			
コ	安心安全な教育環境の整備、充実に努める。	体罰、セクハラ等 職務事故0件 施設設備に起因する事故 件数0件 監査、検査での指摘、文書指導等の件数0件 学校の施設・設備が整備されていると答えた生徒70%以上 警報時の対応について承知していると答えている生徒や保護者80%以上 【管理職、事務、保健相談課】	体罰等0件 施設設備に起因する事故0件 監査での指摘、文書指導等0件 整備されていると答えた生徒は70%だった。 承知していると答えた生徒や保護者は79%だった。	A	不祥事根絶計画を確実に実施し、管理職からも定期的に呼びかけをすることで、体罰等の不祥事を未然に防ぐ。 施設設備については、日頃の点検や教員と事務員の連携を通じて、確実な整備に努める。今後もメールやHPを通じて、警報時の対応を生徒や保護者に周知徹底する。